第24号　本小の教育「授業改善研」　検証授業

○本小授業改善「主体的・対話的な深い学び」



今回は、低学年代表で１年３組・算数、大城日向子先生、単元名「３つの数の計算」が、校内研・検証授業である。日向子先生は、５年経年研も兼ねる授業である。いつも明るくて元気いっぱい、ヒマワリの様な「日向子」先生。教師としても「５年目」伸び盛り、何でも吸収しようとする姿勢、『素直さ・明るさ・向上心』がとても素敵。日向子先生の後ろを、いつも着いて歩く男の子（が羨ましい‥‥）の気持ちがよく分かる。そんな「日向ちゃん」の『校内研・検証授業』と『５年研授業』を、みんなで「見性（けんしょう）」しましょう。

■ １年3組（算）「大城 日向子」先生　5校時目　［検証授業］

［視点１］ 自己肯定感 を 高める





■「授業開始前」クラスの雰囲気づくり Good
- 鐘と共に子供日直、前面に出て担任と
- 「良い姿勢」ー「ハイ（全員の返事）」
- ＜日直＞「〇〇さん、ステキ。素晴らしい」
- ＜他方の日直＞「全員、素晴らしいです」

■「自己肯定感」を実感として体感している！

■「問題把握」電子教科書を活用し動画にて

- 「バスに猫が乗る物語で、問題把握」2分

場面①「はじめに、ネコが　３びき・・・　」
場面②「まず、２ひき　のります。　　」
場面③「次に、また　４ひき　のります。」
立式●「ネコは、みんなで　何びき　・・・」

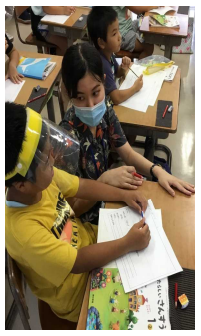
- 「ノート記入」の際に、［教師］が、「（日向子先生と）同じスピードで書いてるねぇ」
- 「すばらしいねぇ」（自己肯定感を実感と）

■「根拠のない自己肯定感」は、大切である
- 「ワ～～！スゴイなぁ」「素晴らしいなぁ！」
- 「〇〇さん、よく出来たねぇ」「スゴ～イ！」
- 「普段から、自分には 良い所が あるんだ。」
- 「根拠のない自己肯定感」の上に、明確な根拠（理由付け）を積み重ねていく事が良
- 「根拠のない土台の上に、明確な理由、夢や希望などを積み上げていくことが大切！」

［視点２］ 学 び・育 ち の実感







■「算数のグループに変身」
対話的活動もルーティン化

■「授業の中での『学び・育ち』の実感とは」
- 「問題」の動画を、３コマの場面に分けて
- 「場面」が「３つ」あることに着目させて
- 「今までの問題と違うところ」は、どこ？

■［発問］前時と本時、違いはどこですか？
- ［T］「今までの問題と違うところは何処？」
- 前時までの２数の足し算と、本時の３コマの場面で「ちがい」を認識させようとした
- ３つの数の加法の意味を理解【知識・技能】
- ２つの数の加法を元に考える【思・判・表】
- 本時のねらい、目標に繋がる発問であった。

●［教師］「なぜ、足し算ですか？」
●［児童］「乗るから」「増えるから」「足し算」

■①「自力解決」、ブロックを活用した 子供
- 「〇匹乗りました」⇔「右手でガッチャン」
- 「右手で」⇒「一方を加える時の合い言葉」
- 「両手で」⇒「両方を合わせる、合い言葉」

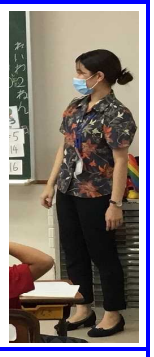
■②「図」、③「式」で「自力解決」した子供
- 「学級全体の前で、発表の機会を与えた！」
- 「ワークSも工夫。机間指導で一目瞭然だ」
- 「練習問題」⇒「①は、教師と共に行った。」
- ⇒「②と③は各自で、担任・学推チェック」
- （まとめ）⇒「心で読む。全員で声を揃え」

［視点３］ 組 織 的 な 関わり









1.「何 を　学 ぶ か ？」
- ［教科書］「３つの数の加法計算の仕方」
- ［一人で］「自力解決」⇒「見つめる」
- ［友から］「小集団で」⇒「多様な考え」

2.「どのように　学 ぶ か ？」
- ［見通し持つ］「WS⇒ブロック、図、式」
- ［自力解決を］「３コマ場面の順で思考させ」
- ［グループで］「友達の　多様な考えを聞く」
- ［全体交流で］「ブロック、図、式、全てを」

3.「何が できるように なったか？」
- ［教科書］⇒「基礎的・基本的な知識・技能」
- ［一人で］⇒「自力解決」「思考・判断・表現」
- ［友から］⇒「ペアで」「小集団で」「多様性」
- ［師から］⇒「知ることを学ぶ」「理解の手段」

4.「何が　身に 付いたか？」
- ［分からないことを、分かろうとする態度］
- ［真実を、真理を、追究しようとする態度］
- ［算数の 楽しさ］⇒「なるほど、おもしろい」
- ［算数の 良　さ］⇒「かんたん、便利だな」
- ［算数の 美しさ］⇒「すごいな、きれいだな」

5.「みとる」（形成的評価）
- 「何を、どの程度、身に付けて　いるか？」
- 「どの様に身に付け、どれ程身に付けたか」

【感想】　「見性」とは「本来、備わっている本性」を、見極めこと ‥‥」。　即ち「見性」を、「検証」

- 〇「日向子先生の　子供への接し方が、子供達の自己肯定感をはぐくむ要因となっている。ひまわりの様だ」
- 〇「日向子先生の　発問が「思考力」を刺激し、表情が「判断力」を助け、眼差しが「表現力」を俯瞰する」
- 〇「日向子先生の　真剣な顔に、優しい顔に、微笑んだ顔に、和んだ顔に、安心と所属感と連帯感を感じる」
- 〇「日向子先生の　包み込む様な声かけに、軽やかなジェスチャーに、丁寧な板書に、みんな　心惹かれる」
- 〇「日頃の会話で　日頃の週案で、日頃の学級たよりで、感じる愛情、感じる学年連携、連帯　すばらしい」
- 〇「非認知能力も　メタ認知能力の育成も、根拠のない自己肯定感を育む事も、明確な夢や希望へと繋がる」
- 〇「低学年の子は　好き、得意に気づかせ、出来る、体感を増やし、友を認め、共に学び、自信へと繋ぐ事」



校長より